

とあるカルデアのマスターになってしまった
人の日記

黒猫夢刹

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

とある事情によりカルデアに来ることになったマスターの日記

目次

芽高秋、藤丸立香、マシユの詳細	1	幼馴染み視点8	49
とあるカルデアのマスターになつてしまつた人の日記	6	幼馴染み視点9	57
幼馴染み視点	10	閑話的な何か	
幼馴染み視点2	13	あるバレンタインの日常	62
幼馴染み視点3	19	秋くんが秋ちゃんの場合の日常日記	69
幼馴染み視点4	23	秋くんが秋ちゃんの場合△月○日の幼馴染み視点	74
幼馴染み視点5	28	秋ちゃんの場合のバレンタイン幼馴染み視点	78
幼馴染み視点6	37	秋ちゃんのコスプレ会幼馴染み視点	85
幼馴染み視点7	43	秋くんが秋ちゃんに……幼馴染みの日	

常

秋ちゃんとクリスマス

91

秋ちゃんとお正月

102

とある少女の……
??? 視点

106

芽高秋、藤丸立香、マシユの詳細

芽高秋 (めたか しゅう)

クラス フォーリナー

筋力 D

耐久 C+

俊敏 A

魔力 B+

幸運 C

宝具 EX

所持カード

Quick×2 Arts×1 Buster×2

所有スキル

生存魔術 A

自身に1ターン回避付加

Busterカード性能アップ

魔力強化 B

自身のNPを増やす

異世界の絆 EX

1ターン後任意のサーヴァントのスキルを使用可能

クラススキル

領域外の生命 D

自身に毎ターンスター1個獲得状態を付与

マイペース A

状態異常にならない

■ ■ ■の寵愛 EX

???

神性 C

自身に与ダメージプラス状態を付与

宝具

???

キャラクター詳細

本来存在しない49人目のマスターの可能性の姿

前世の記憶があつたらしくクラスはフォーリナー

生前から面倒な事は苦手と言うか大嫌いで逃げようとするが成功した試しがない

……

愛が重い女性に好かれやすくもう一人のマスターと竜になれるサーヴァントに取り合いにされていたとか

………まあ、愛が重い女性に惚れられた時点で末路は決まっていた………のか？

※なお、このサーヴァントが召喚された場合、おまけとしてビーストが召喚されるので警戒する事

※逃走魔術

逃走時のみ発動できる魔術

走っている間（気配切断）（脚力強化）が付与されるが秋に体力が無いので持つて2分

※保存魔術

霊体や空気を固定したり依り代に取り込んだり物質が無い物には使える魔術………だ

がサーヴァントに空気を固めて動きを鈍らせようとしても「？いま何かしましたか？」

と無意味な模様

藤丸立香

みんなお馴染みフェイトランドオーダーの女性主人公ぐだ子……がとある二等身の人類悪と融合した存在

双子の弟のぐだ男がいるがこの小説には出ない確率が高い……というか出たらアツー！な展開になる可能性もあるため出したくない

芽高秋が好きすぎて盗聴、盗撮、ストーキング等もする清姫よりも重度なヤンデレ娘なお、人類悪と融合しているため無敵、メタい

※秋は飛行機を使いカルデアまで1週間かかり行ったのにもかかわらず、走って2日でカルデアに來た模様

芽高秋お婿さん計画というのが進行している……秋に逃げる事ができるのかは

……

リヨぐだ子

とある世界のサーヴァントすら恐れる人類悪

ハッキリ言うとはチートを越えたバグ的存在……どんな存在かはもつとマンガで分かるFate／Grand Orderをご覧下さい

この世界のぐだ子はお金持ちのためガチャ狂いに磨きが掛かる予定ですが、幸運ランクが低い……

マシユ・キリエライト

みんなの頼れるシールダーの王道後輩系デミ・サーヴァント……ラスボスor邪神系後輩よりも後輩している子

主人公の初めての友達……ヒロインになるかどうかは不明

マスターは藤丸立香（INリヨぐだ子）なため原作よりも苦労が多そうである……

とあるカルデアのマスターになってしまった人の日記

○月○日

どうも転生者です……

生まれ変わってから十数年……幼馴染みに赤髪の女の子と黒髪の男の子の双子が居ましたが……見たことがある気がするのですよ……

それはそうと何故か！何故か雪山に来てしまっているので日記を書いていきます

○月△日

散歩していたら謎のモフモフ生物のフオウさんと茄子色……コホンツ……紫色の髪の文学少女のマシユ・キリエライトさんと友達になれました！

……別にボッチではない……はずですが友達顔とかは思い出せないですね……あれー？

○月□日

絶体絶命のピンチです……なんと起きたら辺り一面火の海！

何か剣や槍を持った骸骨さんがうろろうろしてます……今は瓦礫の側で座ってます……生きていたらまた書きま

○月☆日

生きてます……前の日記の途中で黒い長身のお姉さんに遭遇しまして……

良かった……何故か頭の中に「逃走魔術」の使い方が出てきまして……何とか逃げられました……

○月◎日

何ですか！あの「めちやくちやハーレムを作って居そうな」出鱈目な黒い男性は……
槍みたいな矢を撃ってくるし！投げた剣は戻って来るし！避けたら爆発するし……
ん？……なにか嫌な予感が……

○月▽日

……僕が居る世界……思い出しました……「赤髪の女の子と黒髪の男の子の双子」「フォウ」さん「マシユ・キリエライト」さん「黒い長身のお姉さん」「めちやくちや（略）な黒い男性」……フェイト・グランドオーダーじゃないですかー！ヤダー！

……よし、マシユさんが居ないと言うことは幼馴染みが居るということ……うん！全部幼馴染みにお任せして人理修復まで大人しくしていきましょう！

○月★日

全部お任せ……出来ませんでした……幼馴染みに見つかり、所長に見つかり、凄い格好のマシユさんに見つかり、キャスターさんに見つかり、ロマンさんに見つかり逃げら

れなくなりまして……

これから黒セイバーの待つ大聖杯がある洞窟に行くことになりました……

PS、僕が見つかったときに幼馴染みから何か異常な数値があったらしいです……

○月▲日

少し日にちが空きましたが人理修復完了しました！……僕は何もしてないですけどね……

あのあと襲ってきた黒い男性……エミヤさんを……前世の記憶であることないこと言っていたら洞窟の奥から黒いビームが……エミヤさんの「なんでさ……」が耳から離れません……

ただ一言いうなら……最良のサーヴァント……聴力も最良ですね……

○月▲日2

エミヤさんを倒した？あと黒セイバーさんの所に行つたのですがいきなりエクスカリバーが飛んできたので死ぬかと思いましたが……少し会話があつたはずなのですが……

ともかくマシユさんの宝具（仮）でエクスカリバーを防いで、キャスターさんの宝具で倒しました……日記ですので詳しくは……

○月▲日3

黒セイバーさんを倒したあとはやはり猿……コホンツ……レフ教授が来て所長は消滅………する前に「保存魔術」というので手持ちにあった高そうなネックレスに魂を入れて帰りました

……レフ教授何をしに来たのでしょうか？

PS、所長の体を作るまで3日ほどかかるようです（ダヴィンチちゃんがつてました）

幼馴染み視点

私は藤丸立香だよ！フェイトブランドオーダーの主人公の！……え？メタい？良いの良いの！だって二等身の私が「メタい？それが何だ！メタい位が話も進みやすいから無問題無問題！」って言うってだからね！

そうそう、二等身の私と会ったのは中学生の時に夢に出てきて「ヤッホー！何か出てきた方がキャラ的に美味しいとピピンと受信したから来てみたよ！私は人類あ…コホンツ…通称リヨぐだ子って呼ばれてるんだ」って……

それから数年……気付いたらリヨぐだ子と融合してました☆夢では会えるんだけどね

あ、私のダーリンの芽高秋くんのことを話さないとね！私が秋くんに会ったのは9歳の時にお母さんとはぐれて迷子になってる時に助けてくれたのが最初……かつこ良かつたなあ……デヘヘ

ハツ！……コホンツ……隣に住んでるって分かった時「彼と私は運命で繋がってるんだ！」って子供ながらに分かったなあ……同じ学校なのも分かったからそれからアタックし初めたんだよね

それから中学、高校と同じ所に通ってバレンタインも本命を渡しても全っ然気付かないの！どうして鈍感にしたの作者……

まあ、高校卒業して私が勝手にカルデア？って所に私と秋くんの履歴書を送って採用されたからこれからも一緒なんだけどね……

印鑑？それはもちろん秋くんのお部屋に入って持ってきたよ？秋くんのお義母さんとお義父さんはすでに私の味方！秋くんはもう外堀は埋められて踏み固められてコンクリートで固められてるんだよ！学校も四六時中一緒、席も担任の先生も脅……お願いして必ず隣にしてもらって……もう学校では公認カップルになってるんだよね……ウエヒヒヒヒ……

あ、秋くんがカルデアに着いたね……え？何でわかるかって？もちろん愛だよ！私と秋くんは愛し合ってるから秋くんが何をしていても分かるんだ！

(……むう……声が聞こえづらい……やっぱ新しい盗聴機を買わないと……)

そろそろ私も出発しないと……む！女の子の声！私が居るのに浮気？浮気なの！？やっぱ秋くんお婿さん計画を早めて（規制）や（見せられないよ！）をして身も心も私一色に染めないと！待っててね秋くん！

(ガチャガチャガチャガチャ……こつちの世界の私はお金持ちだから魔法のカードを買い放題……闇鍋ガチャを引き放題……ウエヒヒヒヒ！こつちの世界で私はグラウンド・

ガーチャーになってみせる！そして夢の☆5サーヴァントの宝具レベル5、もちろんスキマにしてみせる！ウエヒヒヒヒ……

あ、運営様、早く宝具演出スキップの実装を！宝具演出スキップの実装を！

「今悪寒が……風邪を引きましたかね？」

幼馴染み視点2

此処がカルデアかー……………此処にマイスイートダーリン秋くんが居るんだよね
……………まあ、私が（勝手に）出したから当たり前か！

それにしても辺り一面真っ白……………何でこんな所に作ったのかなあ？え？寒くないのかって？紀元前のジャングルに比べれば大したこと……………ハッ！二等身の私の記憶が出てたねうん……………

よし、改めて……………たのもー！あれ？違う？あ、どうも受付嬢さん！一般で雇用され……………え？訓練室に行け？ア、ハイ……………

すんなり着いた！流石私！で何をするのかな？あ、景色が変わってる……………科学の力つてスゲーー！ん？ゲームが違う？……………ごめんなさい……………

『これからマスター適性検査の為の試験を開始します』

マスター？え？何？うん？右手が熱……………熱つ……………アチチチツ……………ふう……………ふう……………何この模様？痣？タトウ……………これから秋くとプールに行けないじゃん

……

今年こそは「大胆な水着で秋くんをドキ☆ドキさせちゃうぞ大作戦！」をしようと思つてたのに……後で責任者に文句言つてやる！……ん？待てよ？此処に来るのがカルデアに入る条件なら……秋くんもこのタトウーがあるはずだよね……私と秋くんが同じ右手に同じタトウー！！お揃い！ペアルック！……責任者さんありがとう！

「あのー……マスター……ご命令を……」

「この金髪貧……スレンダーな人は誰だろう？んーと……あ、チュートリアル的なアレね……じゃあ適当に岩人形を倒しちゃつて！」

「了解しましたマスター！」 エクスカリバー！

よし、秋くんに会いに行こう！おー！

「え？これで私の出番終わり!? ちよ、待つ」

さてと……何処に秋くんは居るのかなー？おや？（なすびちゃん！）うん？二等身の私の知り合いみたい……あの子に聞こう！すいませーん！

「はい？どうかされましたか？」

あの……秋くんじゃなかった……芽高秋と言う人は何処にいますか!? あ、わたしの名

前は藤丸立香！皆からぐだ子って呼ばれてます！宜しくね！

「秋先輩ですか？今は自室で休憩なされてると思います！あ、私はマシユ・キリエライトです！」

フムフムありがとう！

「あの、いきなりですけど先輩と呼んでも良いですか？……何故か解りませんが先輩と呼ばないといけないと言う気分になってしまつて」

（流石私のなすびちゃん！世界は違つても心は通じ合つてるんだね！……フォウくんは何処に行った？）

うん！いいよー！宜しくね！マシユ！

「はい！宜しくお願ひします！立香先輩！」

じゃあ秋くんを探しに行くね！バイバーイ！

「はい！もうすぐ中央管制室で説明会ですので部屋で待つて……行つてしまいました……」

「フォウ！フォウ！」

（※何で僕と同じ……いや僕よりも凶悪な人類悪がいるの!?聞いてないよ……今度マリーリンに会つたら蹴り飛ばす！）

あ、どの部屋に居るのか聞くの忘れてた……どうしよう……ん？金髪の人発見！すいませーん！

「あれ？今説明会中じゃなかったかな？」

説明会って何ですか？私は秋くん……芽高秋くんを探してるのです！……大事なら貴方も此処に居るのはおかしいと思います！

「僕はサボ……休憩中だから良いの……芽高秋くん？秋くんなら中央菅制室に行つてると思うよ？」

中央菅制室ですか！ありがとうございます！あ、私は藤丸立香です！宜しくお願いします！

「僕はロマニ・アーキマン……ロマニかDrロマンと呼んでほしいな」

はい！宜しくお願いします！Drロマン！

「じゃあ中央菅制室まで案内するよ……そろそろ戻らないと所長に何て言われ」

『ドカーーン』

何事!?

《緊急事態発生。緊急事態発生。中央発電所、及び中央管制室で火災が発生しました中央区画の障壁は90秒後に閉鎖されます。職員は第二ゲートから速やかに退避して下さい……繰り返します……》

「モニター、管制室を映してくれ！皆は無事なのか!？」

管制室……管制室に秋くんが?……秋くんを助けないと!（私のなすびちゃん!）

あの煙!?彼処が管制室だ!秋くん!?何処に居るの!?秋くん!

「……………、あ」

マシユ!?今助けるからね!

「……………いいです……………助かりません、から」

いや!助けるの!（私のなすびちゃんを死なせてたまるか!）

「それより、はやく、逃げないと」

逃げるよりもマシユを助けるのが優先!秋くんは居ないから大丈夫!（盗聴器も静かだからカルデアに居ないはず!）もうちよつと……………!

《中央障壁封鎖します……………館内洗浄まで180秒》

「……………障壁、閉まつちやい、ました……………もう、外に、は」

……………うん……………そうだね……………（あーあ……………秋くんに告白してゆくゆくは皆も羨むラブラブ夫婦になれなかつたなあ）

《適応番号48藤丸立香、及び適応番号49芽高秋をマスターとして再設定します》

《アンサモンプログラムスタート……霊子変換を開始します》

「……あの、………せん、ぱい……手を、握ってもらって、いいですか？」

……うん、良いよ

《レイシフト開始まで3、2、1》

《全工程完了 ファーストオーダー 実証を開始します。》

幼馴染み視点3

《問おう……「芽高秋を1日好きにできる権利」と「無料引き直し10連ガチャ（限定サーヴァント入り）」のどちらか片方しか選べぬならどちらを選ぶ》

それは勿論！秋く「ちよつと待ったー！勿論無料10連ガチャでしょー！」二等身の私！？あ、ここは夢の中なんだ……なら二等身の私の好きな方で良いよ「マジで!？」

《……無料引き直し10連ガチャを選ぶか》

あのー……もしも秋くんを選ぶとどうなるんですか？

《芽高秋を選んだ場合……1日のみ有り得たかもしれないサーヴァントとしての芽高秋が現界する予定であつたが》

前言撤回します！秋くんで！「ちよつ！私の好きな方って言つたじゃないですかー！ヤダーー！」

1日だけとは言え秋くんが2人になるんだよ!？秋くんハーレムだよ!？これに乗らなきゃ真の秋くん好きは語れない！

「何おう！全世界のFGOプレイヤーの夢！無料引き直しガチャを捨てるのか！それでもFGOプレイヤーか!？」二等身の私の世界ではサーヴァントとか言う人は居ても私は

まだサーヴァント居ないもん！「ぐぬぬっ……」

だから秋くんて決ま「いや！10連無料ガチャ！」

秋くん！「ガチャ！」 秋くん！「ガチャ！」

「立香先輩……起きてください！立香先輩！」

「……起きません……ここは正式な敬称で呼び掛けるべきでしょうか……」

秋くん好きにとつては何よりも大切な……

「マスター……マスター、起きてください。起きないと殺しますよ。」

はい！起きます！起きますから殺すのは……あれ？

「良かった。目が覚めましたね立香先輩。無事で何よりです」

いま、殺しますよ、とか言わなかった？（私のなすびちゃんが不良に!?……それもそれで……）

「……言い間違えました。正しくは殺されますよ、でした。」

「……その、想定外のことばかりで混乱しています。落ち着きたいところですが、今は周りをご覧ください」

周り?……おお!景気よくファイヤーしてるね!……大惨事だ!……ところで目の前の骸骨さんはマシユのお知り合いか何か?

「え？ええええ！？」

あれ？思ったより脆いねー？あ、骸骨だからかな！

「り、立香先輩？敵性生物をパンチで……それよりも怪我は！お怪我はごさいませんか
!？」

うん！大丈夫大丈夫！凄く骸骨さんが脆かったから怪我もないよ！さ！どんどん行
こー！

「了解しました……立香先輩」

藤丸立香……■■■との融合率 &*%上昇が確認されました

幼馴染み視点4

「ああーやつと繋がった！もしもしーこちらカルデア管制室だ！聞こえるかい！」

あ、Drロマンだー！テレビ電話かな？

「こちらAチームメンバーマシユ・キリエライトです……現在、特異点Fにシフト完了しました」

Aチーム？特異点F？なんだろ？

「同伴者は藤丸立香一名……心身ともに問題……問題ありません？」

うん！私は元気だよー！あれ？マシユ？何で疑問系なのかな？

「レイシフト適応、マスター適応、ともに良好。藤丸立香を正式な調査員として登録してください」

何言ってるかわからない……どういう事？（フッフッフツ！この人類あ……コホンツ……サイキョーの私と融合してるんだから当たり前だよ！私に感謝しなさい！ハーツハツハツハツ……ゲホツコホツちよつ……待つ……こほこほつ……はあ……落ち着いた……コホンツだから無料10連ガチャの権利……）

「……やっぱり立香ちゃんもレイシフトに巻き込まれたのか……」

「コフィンなしでよく意味消失に耐えてくれた。それは素直に嬉しい」

??? えーとありがとうございます？

「それと、マシユ君が無事なのも嬉しいんだけどその格好はどういうコトなんだい！」
「ハレンチすぎる！ボクはそんな子に育てた覚えはないぞ!」

ええええ!?! Drロマンがマシユのお父さんなの!……Drロマン若いなー

「これは変身したのです。カルデアの制服では立香先輩を守れなかったので」

変身? それはテレビで見るピカーツで光ってフリフリな格好になるあの!?! つまりマシユは魔法少女だった?……首から上を守らなきゃ(使命感)

「つまり君がマシユのマスターなんだ。キミが初めて契約した英霊が彼女、という事だね」

ア、ハイ……全く何を言ってるかわからない……(つまり私のなすびちゃんは凄く強い幽霊と融合して強い!)なるほどー! 良くわかった!

「ドクター、通信が乱れています。通信途絶まで、後十秒」

「二人とも、そこから2キロほど移動した先に霊脈が強いポイントがある」

「なんとかそこまで辿り着いてくれ。そうすればこちらの通信も安定する」

ふむふむ……れーみやくに行けば良いんだね! よし、行くぞー!

れーみやく見つからないねー？れーみやくつて言うくらいだから大きな山だよね！

「立香先輩……それは山脈だと思います……霊脈と言うのは……」

〈キヤアーーーーー！〉

女性の悲鳴！助けなきや！（あの声は所長だ！）

あ、骸骨さんだ！とう！「ドゴツ！」「バキッ！」もういつちよー！「ドガンツ！」

「え？え？」

「サーヴァントの私が置いていかれました……」

よし！全滅だー！ん？どうしたの2人とも？

「どうしたの？じゃないわよ！あの化物を殴つて消滅させるなんて非常識よ！と言うか

貴女誰なの!？」

凄く脆いから所長さんも出来ると思いますよー！あ、藤丸立香です！宜しくお願ひし

ます！

「え？あ、私はオルガマリー・アニムスファイア……人理継続機関カルデアの所長です

……つて貴女は私の演説に來なかつた一般人？じゃない！」

「それに何故マシユが今さらデミ・サーヴァントになつたの！どうしてマスターになつて
いるの！マシユにどんな乱暴を働いて言いなりにしたの！キリキリ言いなさい！」

えーと……マシユは此処に來たときから魔法少女でマスター？になつたのも此処に

来たときからで乱暴なんてしてないよ！誤解だよ！

（私のなすびちゃんには……ちよーつと過激的なスキンシップ……そうスキンシップをする位で乱暴はしてません！（キリッ！）

「……経緯を説明します。その方がお互いの状況把握にも繋がるでしょう。」

「……以上です。わたしたちはレイシフトに捲き込まれここ冬木に転移してしまいました」

「他に転移したマスター適性者はいません。所長が此方で合流できた唯一の人間です」
「でも希望ができました。所長がいらつしやるのなら他に転移が成功している適性者も

……」

「いないわよ……それはここまでで……」

秋くんがここに来てるよー！だって秋くんの匂いがするもん！

「匂いって……そんなわけがないでしょう！臭うのは焼けた家の臭いだけよ!」

むううー！わかった！じゃあ秋くんを探してくるね！マシユ！所長さんを守ってね！

「立香先輩！一人では危険です!」

じゃあ、皆も着いてきて！大丈夫！絶対に秋くんが居るから！私の愛に間違いはないもん！

「ちよつと置いていかないでよ！着いていくわよ！着いていけば良いのでしょ！」

「その頃のロマン」

「おかしいな……まだ霊脈に着かないのかな？」

幼馴染み視点5

クンクン……うん！こつちだよ！こつちから秋くんの匂いがする！

「秋くん……何処かで聞いた覚えがあるのだけど……」

「オルガマリ―所長、秋先輩は一般枠で募集されたマスター候補の方です」

「……思い出したわ……私の演説に來なかつた一般人その2ね」

え？秋くんも演説に居なかつたんですか!?

「そうよ……私の演説を何だと思つてゐるのかしら」

ごめんなさい……秋くんを探すのに走り回つてたので……

「貴女ずつと秋くん秋くんと言つてゐるけれどそんなに秋くんと言う人が大切なの？」

え？勿論大切に決まつてるじゃないですか！私と秋くんは幼馴染みで未来の夫婦で愛し合つてる（予定）んですよ！勿論、秋くんは優しいし、格好いいし……他の泥棒猫が秋くんを盗んでいかなないように目を光らせないといけなかつたんですよ！それに……

「も、もう良いわ……充分大切なのがわかつたから……（本当に秋くんと言う人を見つかつたら優しくしましょう……）」

え？まだまだ秋くんが大切なのか言っていないのですけど？

「はい、立香先輩が秋先輩の事が好きだと分かりました」

そう？……ん！あの黒いお姉さんから秋くんの匂いがする！そこのお姉さん！男の人知りませんかー！

「立香先輩！この特異点には生存者はいません！女性に近づかないでください！」
え？

「A A A A A A A A A A！」

「藤丸立香！避けなさい！早く！」

「ダメです！間に合いません！立香先輩！」

……秋くんのこと教えてくれないんだ……へえ……お前も秋くんを盗もうとしてるんだ……

「先輩？」

「ドガッ！バキッ……ドゴンッ！！」

「G i …… A A A A A A A A A A ! ?」

……泥棒猫に手加減は要らないよね？……秋くんが何処に居るか教えてよ……ねえ？

「G u A …… A ……」

「敵性生物……消滅しました……」

あれ？黒いお姉さんが消えちゃった……まだ教えてもらってないのに……むう！
まあ、近くに居るよね！

「……………（あれはナニ!?一般人なんかじゃない……もつと恐ろしい……）」

クンクン……次はこつちから秋くんの匂いがするよ……あれ？所長どうしたの？

「なんでもないわ……気にしないで」

そう？あ、黒い男の人だ！すい

「待ってください！立香先輩！」

どうしたの？マシユ？

「先ほどの黒い女性と同じ存在です……また襲い掛かられる可能性があります……慎重
に行動しましょう」

了解！すいません！この辺りで男の人を見ませんでしたか!?

「見ツケタゾ。新シイ獲物。聖杯ヲ我ガ手ニ！」

「聖杯……!?!こいつはサーヴァントよ！姿から見てクラスは……アサシン！注意して
！」

「……………応戦します！立香先輩、わたしを使ってください……！」

ごめん！少しだけのいで！

「……はい。あなたに勝利を、マスター！」

「ハア！」「ガンツ！ドゴツ！」これで！」「バンツ！」

「甘イ！」「ガギンツ！」

「マシユ！援護するわよ！ガンド！」

「当タラン」「ヒュン」

「……！今です！ハアー！これで、どうだっ……！」

「……ドウモ、何モ、話ニナラン。コレデハ私一人デ十分ダツタカ」

マシユ！下がって！もう一人居るよ！

「そんな……一体でも負けてるのに、二体同時に襲ってくるの!?!」

「……………あ」

「決メルゾランサー……ドコノ英靈力知ヌガ、御首ニハ違イナイ」

「ハ。……ハハハハハハハハ！」

マシユ！所長！しっかりして！足を動かして！

「ハ。ハハハハハハハハ！」

……ん……この感じ……よく見るような……あ、二頭身の私か……ガチャがどうか言っている時とかこんな感じになってるなー

「クツ」「ガギンツ」マスター！指示を……！」

……よし！戦おう！

「……了解です。もう、それしかありません……!」

「ハ。未熟未熟。戦ウモ死ニ筋、逃ゲルモ無理筋。未熟者ノ末路トハドウアレ無様ヨナ」
「ソレデヨイ。藻掻クガヨイ。無様ナ者ホド面白イ！」

「た、戦うって正気!? どうあつても勝ち目が……(あれ? あの子が殴ったら勝てないかしら?)」

うん? どうしたの? 所長? ……何か付いてるかな?

「いえ、なんでもないわ……」

「戦うしかありません。死中に活を見いだします……!」

「ハ……死ンダゾ、娘……!」

「小娘かと思えばそれなりに兵じゃねえか。なら放っておけねえな!」

「ドガアンツ!!!」

「又ウ……! 何者ダ……!?!」

「何者って見れば分かんたろご同輩。なんだ泥に飲まれちまって目ん玉まで腐ったか

?」

「貴様! キャスター! ナゼ、漂流者ノ肩ヲ持ツ……!?!」

「あん？ テメエらよりマシだからに決まってるだろ。それとまあ、見所のあるガキは嫌いじゃない。」

「そら、構えなそこのお嬢ちゃん達。腕前じゃあアンタらはヤツに負けてねえ。気を張れば番狂わせもあるかもだ。」

「は……はい、頑張ります！」

「え、ええ……わかったわ」

「お嬢ちゃんがマスターかい？ なら指示はアンタに任せようか。」

「オレはマスターのサーヴァント。故あってヤツラとは敵対中でね」

「敵の敵は味方ってワケじゃないが、今は信頼してもらっていい」

「二人で健気に戦ったあのお嬢ちゃん達に免じて仮契約だがアンタのサーヴァントになつてやるよ！」

キヤスターのお兄さんありがとう！ よーし！ みんなやるよ！

まずはマシユ！ 所長を守つて！ 所長は何でもいいのでアサシンに攻撃をお願いします！ キヤスターのお兄さんはあの大きなひとを近付けないで！

「了解です！」

「わかったわ！」

「おう！ 了解だ！」

「邪魔ヲスルナ！」「ガキンツッ！」「行かせません！」

「……………行つて！ガンド！（強）」「グア！小癩ナ！」

「退ケ！キャスター！」「悪いが行かせられなくてな！」「ドカンツッ」

「立香！サーヴァントには宝具と言う英霊たる由縁の物があるの！キャスターの宝具ならどうにかなるかもしれないわ！」

了解！キャスターのお兄さん！宝具とか言うのは出来る!?

「ああ！だが少し時間があるぜ！」

わかった！マシユはキャスターのお兄さんの宝具の時間稼ぎ！所長はアサシンと大きな人を一カ所に集めて！キャスターのお兄さんは宝具を使って！

「退ケエエ！小娘エエ！」「守つてみせます！」

「あつちに行きなさい！」「グア！」

「#r#&S……行けるぜ！お嬢ちゃん！」

キャスターのお兄さん！お願い！

「とつておきを入れてやる！焼き尽くせ木々の巨人。『灼き尽くす炎の檻ウィツカーマ』」

「グアアアアアアア！」

「アアアアアアアア！」

「グ……オノレ、聖杯ヲ、目ノ前ニ、シテ……」

やった……勝てたよ！マシユ！所長！キヤスターのお兄さん！

「あ、あの……ありがとうございます、ございます……危ないところを助けていただいて……」

「おう、おつかれさん。この程度貸しにもならねえ、気にすんな」

「それより自分の身体の心配だな。ケツのあたり、アサシンのヤロウにしつこく狙われ

てただらう？」

「ひゃん……！」

な！マシユに何してるの！（私のなすびちゃんに触るなんて！羨ましい！）

「おう、なよつとしてるようでもいい体してるじゃねえか！役得役得つとー！」

「何のクラスだがまったくわからねえが、その頑丈さはセイバーか？いや、剣は持ってね

えけどよ」

「……ちよつと、立香。アレ、どう思う？」

まごう事なきセクハラオヤジだね……

「その頃の人類あ……コホンツ……リヨぐだ子」

「いや、私だって空気を読むよ？あんなシリアスたつぷりの空気に私が入ったららぐだぐ

だになるからね！キヤスニキが来たときに入ろうかと思ったけど我慢しましたよ……でも特異点も中盤に入ったし、作者もサクサク進めるよね！だってガチャが回せるんだよ！頑張るしかないよね！」

「(台本確認中)……へー……秋くんのサーヴァントはあの子かー！これは修羅場確定だね……ん？あれ？まだ私視点続いてたの!?!此処は立ち入り禁止だよ！早く帰れー！」

幼馴染み視点6

「……以上が私達、カルデアの事情です」

「現在は立香がマスターとして現地調査を行っています」

「確認しますが、貴方はこの街で起きた聖杯戦争のサーヴァントであり、唯一の生存者です
すね?」

秋くんも居るんだよ!

「負けてない、という意味ならな。オレ達の聖杯戦争はいつの間にか違うモノにすり替わっていた」

「経緯はオレにもわからねえ。街は一夜で炎に覆われ、人間はいなくなり、残ったのはサーヴァントだけだった」

「真っ先に聖杯戦争を再開したのはセイバーのヤツだ。奴さん、水を得た魚みてえに暴れ出してよ」

「セイバーの手でアーチャー、ランサー、ライダー、バーサーカー、アサシンが倒された」

「七騎のサーヴァントによるサバイバル……それがこの街で起きた聖杯戦争のルール

だったわね」

「キャスターさんはその中で勝ち残った……いえ、生き残ったサーヴァントというワケですね」

「ああ。そしてセイバーに倒されたサーヴァントはさっきの二人よろしく、真っ黒い泥に汚染された」

「連中はボウフラみてえに湧いてきやがった怪物どもと一緒に何かを探しだし始めやがった」

「んで、面倒な事に探し物にオレも含まれている。オレを仕留めないかぎり、聖杯戦争は終わらないからな」

「???……聖杯って何? (聖杯は簡単に言ったら「1つで済むドラ○ンボール」だね! 聖杯戦争はそのドラ○ンボールを7人の英霊……えーと……強い人を呼んで1人になるまで戦わせる事だよ!) ふむふむ……じゃあ、聖杯があれば秋くんとずっと一緒に要られるんだ! よーし! 聖杯探すぞ! 秋くんも近いし!」

「ちよつと待ちなさい! まだキャスターと話が……ああもう!」

「立香先輩! 置いていかないでください!」

「お嬢ちゃん1人で危ねえって!」

んー……秋くん見つからないね……匂いが凄く近いんだけど……

「……立香先輩、所長……とても言いにくいのですが……」

ん？どうしたのマシユ？

「霊脈のターミナル設置を行っていません……」

あ、そうだったねー！すっかり忘れてたよ

「そうだったねー！じゃないわよ！立香！貴方が秋くん秋くんと突っ走るからでしょう！……どうするのよ！」

所長、ごめんなさい……一回戻る？

「一回戻る？じゃないわよ……ここからどれだけ離れていると思うのよ……」

どうしようか？

「仕方ないわ……この近くにも霊脈のターミナルがあるはず」

「このポイントです、所長。規模は小さいですがレイポイントは所長の足下だと報告します」

「うえ？あ……そ、そうね……そうみたい。わかつてる、わかつてたわよ、そんなコトは！」

ええー？ほんとにござるかあー？

「本当よ！……少しムカつくわねその言い方……コホンツ……マシユ、あなたの盾を地

面に置きなさい。宝具を触媒にして召喚サークルを設置するから。」

「……だ、そうです。構いませんか、立香先輩？」

うん！いいよー！

「これは……カルデアにあった召喚実験場と同じ……」

『シーキュー、シーキュー、もしもし！よし、やっと通信が戻ったぞ！』

『ふたりともご苦労さま、空間固定に成功した。これで通信もできるようになったし、補給物質だって』

「はあ!?なんで貴方が仕切っているのロマニ!?レフは?レフはどこ?レフを出しなさい
!」

『うひゃああああ!?』

『しよ、所長、生きてらしたんですか!?あの爆発の中で!?しかも無傷!?どんだけ!?』

「どういう意味ですかっ!いいからレフはどこ!?医療セクションのトップがなぜその席にいるの!」

ねえねえ?マシユさんや

はい?どうしましたか?立香先輩?」

レフさんって誰?

「人理保証機関カルデアの顧問をしていた魔術師の方です」
そうなんだー！偉い人なんだね！

「ピピーー！」

「ということになったからわかったわね？立香、マシユ」

……………えーと……………秋くんを見つけて、聖杯を見つけて帰れば良いんだよね！

「立香先輩……………それは違うと思われませう」

「違うわよ……………あれ？それで良いのかしら……………？」

まあ、秋くんを探そう！おー！ほらマシユも！

「お、お……………？」

「オルガマリーの葛藤」

「本当に立香に任せても大丈夫なのかしら……………いえ……………秋くんという人で暴走しなければ……………ああ……………こういう時レフが居てくれれば……………」

……………あれ？これって立香と同じ……………!?……………そう、そうよ！いつまでもレフとすがるのは駄目よ！わたしはオルガマリー・アニムスファイアよ……………！そんなのじゃあ誰もわたし

を認めてくれないわ……頑張るのよわたし……おー！………恥ずかしいわねこれ
……」

幼馴染み視点7

中々見つからないな……秋くん……

「……………」

「ちよつと、立香。マシユが見るからに落ち込んでいるわよ」

「アナタ、一応マスターなんでしょ？何かケアしてあげなさいよ」

マシユ？どうかしたのかな？

「……………いえ、特に変化はありません、わたしは平常運転です、マスター！」

「ですが……変化がない、というのが問題で……」

「……………その、わたしは立香先輩の指示のもと、試運転には十分な経験を積みました」

「なのに……わたしはまだ宝具が使いません」

「使い方すら分からない、欠陥サーヴァントのようなのです……」

んー……ゆつくりで良いと思うよ？宝具って言うくらいだから凄く頑張ってやっと使えるんじゃないかな？

「あ？そんなのすぐに使えるに決まってんじゃないか。英霊と宝具は同じもんなんだから」

「お嬢ちゃんがサーヴァントとして戦えるのなら、もうその時点で宝具は使えるんだよ」
「なのに使えないってコトあ、単に魔力が詰まってるだけだ」

「なんつーの、やる気？ いや、弾け具合？ とにかく、大声をあげる練習をしてねえだけだ
ぞっ。」

「そうなんですか!?! そーうーなーんーでーすーかー!?!」

うわあーびつくりしたー!

「ちよつと、いきなり大声出さないで！ 鼓膜が破れかけたわよ、本気で!?!」

「あ……申し訳ありません、所長。でも、大声をあげればいいとキャスターさんが……」

「いや、モノの例えだったんだが……まあ、ともあれやる気があるのは結構だ」

「立香、お嬢ちゃんがこう言ってるんだ。少しばかり寄り道して構わねえな?」

うんーいくらでも大丈夫だよー!

「なに、ただの特訓だ。すぐに終わる。今の俺はキャスターだぜ? 治療なら任せておけ」

「まずは……ちよい、ちよいと。厄寄せのルーンを刻んでだな……よし出来た」

……? 厄寄せ? 厄除けじゃないの?

「え? なにしてるのアナタ。なんでわたしのコートにルーンを刻んでいるの?」

「アンタなら狙われても自分でなんとかできるだろ。ほら、来たぜ」

「G r r r r …… Z u a a a a ……!」

「意味が分からないんですけどー!?! いやー!?!」

「しょ、所長、わたしの後ろに!立香先輩も戦闘準備お願いします……!」

「ちよつと!近付かないで!きやー!?!」

所長に近付くなー!「ドゴンツ!」

「おいおい……立香……お前人間か!?!」

酷いよ!私はれっきとした人間ですよー!「ドカンツ!」

「あー!もう!お嬢ちゃんの特訓にならねえじゃねえか!」

「いえ……これは「ガキンツ」ハア!キツイですよ「ドカツ!」」

「限界、です……これ以上の連続戦闘、は……すいません、キャスター、さん……」

「はあ……はあ……何を考えて……いるの、よ……アナタは……」

後で……覚えておいてね……

「よし、んじやあ次の相手はオレだ」

「味方だからって遠慮しなくていいぞ。オレも遠慮なしで立香を殺すからよ」

「……っ!?!」

「何言ってるのアナタ、正気!?!この訓練に立香は関係ないでしょう!?!」

「サーヴァントの問題はマスターの問題だ。運命共同体って言わなかったか、オレ？」
「お前もそうだろう、立香？お嬢ちゃんが立てなくなったら時が手前の……いや……さつき化物を殴ってたしな……まあ、手前の死だ」

「……！マスター……下がって、ください……！」

「わたしは……立香先輩の足手まといには、なりませんから……！」

「おら！お嬢ちゃんが守らねえと立香が死ぬぞ！」

「ドゴンー」くう……！立香先輩を守って見せます……！」

「中々粘るじゃねえか！」

「ハア……ハア……ハッ……！」

「おう、そろそろ仕上げだ！主もろとも燃え付きな！」

「我が魔術は炎の檻、茨のごとき緑の巨人。因果応報、人事の厄を清める杜」

「倒壊するはウィツカー・マン！オラ、善悪問わず土に還りな——！」

「あ………あ、」

「(守らないと……使わないと、みんな消える……偽物でもいい。今だけでもいい。わたし……わたしがちゃんと使わないと、みんな無くなってしまう……！)」

「ああ、あああああ——！！！」

「キイイイイイイイン」

「あ……わたし……宝具を、展開できた……んですか……?」

「……ヒュウ。なんとか一命だけはとりとめると思ったが、まさかマスターともども無傷とはね」

「喜べ……いや、違うか。誉めてやれよ立香」

「アンタのサーヴァントになったお嬢ちゃんは、間違いなく一線級の英霊だ」

「立香先輩……わたし、いま……!」

うんーマシユはやっぱ凄いな!

「っ……!」

「……マシユ……やればできるじゃない……」

「所長……ありがとうございます!」

「だがまあ……それでも真名をものにするには至らなかったか」

「あ……はい。宝具は使えるようになりましたが、まだ宝具の真名も、英霊の真名も分かりません……」

「でも真名なしで宝具を使うのは不便でしょ。いいスペルを考えてあげる」

「宝具の擬似展開なんだから……そうね、ロード・カルデアスと名付けなさい」

「カルデアはマシユにも意味のある名前よ。霊基を起動させるには通りのいい呪文で

しよう?」

「は、はい……!ありがとうございます、所長!」

うん!ロード・カルデアス!凄く良いよ!

「わたしが考えたのだから当然よ!」

よーし!マシユも強くなつたし!どんどん進もう!おー!ほら!マシユも所長も!

おー!

「は、はい!おー!」

「なんでわたしがしないといけないのよ……おー……」

「その頃の人類あ……リヨぐだ子」

「ぐぬぬっ……おかしい……シリアスが多くない!?え?これが普通?嘘だー!……出番を……出番を下さい!くっ……次の話のシリアスを消してやる!全部ギャグに変えてやるからなー!チクシヨー!……うう……え?次は私の出番がないの!」

幼馴染み視点8

ん!?私の秋くんセンサーが反応してる!すごく近くに秋くんがいるよ!

「なによ……その秋くんセンサーって……そんなセンサーなんてあるわけないでしょ!」

『いや……前方に生体反応……この反応は芽高秋くんのだ!』

「嘘でしょう!?!……匂いといい、センサー?といい……立香……アナタ本当に人間!」

「さすがです!立香先輩!」

失礼だよ!秋くんへの愛がなせる技だよ!あ!居た!

「あれ?立香さんですか?……こんな所……というか此処がどこかはわかりませんが」

……会うなんて奇遇ですね」

あーきーくーん!!! 会いたかったよー! 秋くんの匂いだー! クンクン……うえええん!! (ぎゅーっ!) モウハナサナイカラ (小声)

「いや、臭いを嗅ぎながら泣かないでくださいよ…… (なでなで)」

「……アナタ秋くん? なのかしら?」

「あ、はい……アナタはオルガマリー・アニムスフィア所長ですよね?」

「ええ、あなたがすっぱかした演説をしていた人利保証機関カルデアの所長オルガマリー・アニムスフィアよ」

「……その節はすいません……」

「……まあ、過ぎたことだし……許してあげるわよ」

「ありがとうございます……（あれ？もつと言ってくると思っていたのですが……？）」

ぐずつ……ひつくつ……うえええん！

「そろそろ泣き止みましょう？……もうどこにも行きませんから……」

ぐずつ……ほんとう？……うそじゃない？

「立香さんは僕は嘘が苦手なのは知っていますでしょう？」

うん！

「ああ……顔が涙と鼻水でぐしゃぐしゃじゃないですか……はい……涙を拭いてください」

うん！チーンッ！グスッ

「立香さん、落ち着きましたか？」

うん！落ち着いたよー！……手を繋いでも良いかな？

「僕の手でよければどうぞ」

ありがとうー！……えへへ！

「秋先輩！ご無事でしたか!？」

「マシユさんは……凄い格好してますね……」

「これは……わたしがデミ・サーヴァントになったときに……」

マシユは凄いんだよー！大きな盾でドカントッ！って！

「そうなのですか……マシユさんも頑張ったのですね」

「……！はい！」

「おめえが秋か？」

「えっと、はい、芽高秋です……キヤスターさんですよ」

「オレは……いや、真名は言えねえんだったなキヤスターで良いぞ」

キヤスターのお兄さんは大きな木の人形がドカーンって凄いなだよー！あとセクハラオヤジなんだー

「そうなのですか？大きな木の人形は見たいですね（幼児退行してませんか……いや、元からでしたね）……へえー……」

「おう！これから見ることになると思うぜ？いや……それはだな」

マシユのお尻触って役得って言ってたよ！

「……………ああ……………なるほど……………あの神話の英霊なら仕方ないですね……………」

キャスターのお兄さんがどんな英霊が知ってるの？

「答えを言うのは面白くないので……………影の国、紅い槍、女王の弟子で調べればわかりますよ」

うん！わかった！

「へえ……………オレの事を知ってやがったか」

「有名ですからね」

『君が芽高秋くんかい!?!』

「あなたはロマニ・アーキマンさんで良かったですか？」

『ボクの事はDr.ロマンと呼んでくれるかい？……つてそんな事より!? どうやって生きてこれたんだい？……この一帯には食べるものが無かったはずだよ!』

「えっと……適当に川で魚を取って食べてました」

『そんな無謀な！ 帰ってきたらメデイカルチェックを受けてもらうからね!』

「わかりました（……？あれ？フオウくんは？）」

よーし！ 秋くんも見つかったから聖杯見つけて帰ろう！

「その頃のカルデア」

「Drロマン！特異点Fに異常な数値を検出しました」

なんだって!?!マシユ、立香ちゃん……所長……無事でいてくれ……!

※立香が秋くんに抱き付いているだけです

幼馴染み視点9

「大聖杯はこの奥だ。ちいとばかり入り組んでいるんで、はぐれないようにな」

真つ暗で大きいねー・秋くん！

「そうですね……こんなに大きいとは思いませんでした」

「天然の洞窟……のように見えますが、これも元から冬木の街にあったものですか？」

「でしょうね。これは天然半分、半分人工よ。魔術師が長い年月をかけて掘げた地下工房です」

「それより、キャスターのサーヴァント。大事な事を確認してなかったのだけだ」

「セイバーのサーヴァントの真名は知っているの？ 何度か戦っているような口ぶりだったけど」

真名って何かな？

「真名と言うのはサーヴァントの英霊になる前の名前ですな」

そうなんだ！（キャスターって言うのも魔術師として呼ばれたからだよ！……なんで☆3なのかなー……）???

「ああ、知ってる。ヤツの宝具を食らえば誰だって真名……その正体に突き当たるから

な」

「他のサーヴァントが倒されたのも、ヤツの宝具があまりにも強力だったからだ」

「強力な宝具……ですか？それはどういう？」

「王を選定する岩の剣のふた振り目。おまえさんたちの時代においてもつとも有名な聖剣」

「その名は、」

あ、知ってる！レーヴァテインだよね！

「いや、何故そつちですか……」

あれー？

「エクスカリバー。騎士の王と誉れの高い、アーサー王の持つ剣だ」

「アーチャーのサーヴァント……！」

「おう、言ってるそばから信奉者の登場だ。相変わらず聖剣使いを護ってるんのか、テメエは」

「……ふん。信奉者になった覚えはないがね。つまらん来客を追い返す程度の仕事はするさ」

「ようは門番じゃねえか。何からセイバーを守ってるかは知らねえが、ここらで決着をつけようや」

「永遠に終わらないゲームなんざ退屈だろう？良きにつけ悪につけ、駒を先に進ませないとな？」

「その口ぶりでは事のあらましは理解済みか。大局を知りながらも自らの欲望に熱中する……」

「魔術師になってもその性根は変わらんと見える。文字通り、この剣でたたき直してやろう」

「あ、熱中しているところすいません……ちよつと話をしても良いですか？」
ん？どうしたの？秋くん？

「危険です！秋先輩！」

「なんだね？」

「いえ、あなたに言わなければいけないと思ひまして……（保存魔術で空気を固定して……）」

「正義の味方を目指していたという男性の話ですけど……あ、なんで知ってるかは秘密で……」

「……!？」

正義の味方!?!格好いいね!

「その正義の味方の男性……Eさんにしましょうか……Eさんはなんと！4人の女性に

「好かれていたらいいですよ！（大声）」

「何を言ってる……」

「二人目は青い鎧の女性、二人目は赤い服とツインテールがトレードマークの同級生、三人目は同級生の妹で後輩、そして義理の姉！（大声）」

「ちよつと待」

「それだけではないのですEさんの死後に英霊として月に行くのですが……更に2人ふやしているのです！（大声）」

へー……Eさんは最低だねー！

「はい、立香先輩……Eさんは最低です」

「なによその女の敵は!?!」

「へえ……（ニヤニヤ）」

「グハッ！」

「その2人のことはまた後で話します……あれ？どうしたのですか？アーチャーさん？」

ねえねえ？そのEさんって本当に……

「……！マシユさん！宝具展開出来ますか！」

「は、はい！宝具、展開します……！『仮想宝具 擬似展開／人理の礎』」

閑話的な何か

あるバレンタインの日常

ヤッホー！藤丸立香だよ！今回は中学校のバレンタインの話だよ！作者が「……本編を連続で書けと言うのは何て無理ゲー……文章苦手なのです」とこの話を書きました！……居ないと思うけど本編を楽しみにしている人はごめんね？ではでは始まるよー

2月14日……それは……女性は愛しい男性に対して想いを伝える大事な日……男性は……チョコレートと言う気持ちちが籠ったプレゼントを貰えるかで勝ち組と負け組が決定してしまう日……すなわち！戦争である！

（例えるなら初日ピックアップガチャで目当てのサーヴァントが引けるか爆死するか……期待と不安でドキドキするのと同じだね！byリヨぐだ子

え？私？ピックアップガチャで爆死するのはいつもの事ですが何か？……何か？
（泣）

今年こそはマイスイートダーリン秋くんに私の溢れ出るこの想いをダイレクトアタックするんだ!……二等身の私から貫ったアレやコレ……はたまたアンナモノまで入っているから、もはや約束された勝利のチョコだけどね!

いつもなら秋くんの家に迎えに行ってお義母さんやお義父さんにご挨拶して、秋くんのお部屋でアレコレして、秋くんの寝顔を10分……いや20分眺めて(写真込み)学校に行くんだけど今日は秋くんの靴箱にチョコレートを入れるというミッションがあるから先に行かないといけなの……ごめんね……秋くん……

とそんなこんなで学校に到着!秋くんの靴箱に約束された勝利のチョコを入れればミツシヨンコンプリ……ト?……あれ?何でもうチョコが2つも入ってるのかな?……おかしいなあ……私の秋くんを狙う泥棒猫が2匹も居るのかあ……後でオハナシしないとね……

……先にあつた泥棒猫のチョコをポイツ!として靴箱に入れ(キュピーン)……この感じは秋くんが近くに来てる!何で!?まだ秋くんが学校に来るのに30分はあるのに!?……くつ……作戦変更だ!チクシヨ!

コホンツ……おはよう!秋くん!起こしに行けなくてごめんね?ちよつと学校に用事があつて……

「あ、立香おはようございます……いえ……いつも起こしてくれてありがとうございますま

す……」

今日は来るのが早いねー！やっぱり今日は特別な日だからワクワクして早く来たのかな？

「……特別な日ですか？何かありましたか？」

あ、ううん……秋くんは気にしないで大丈夫！じゃあ教室行こうか！

「あ、はい」

……バレンタインに気付いてないのかな？毎年特大のハートのチョコを渡してるのに……（あ、まだアレとかコレとかは入れてないよ！）

今は授業中……やっぱり勉強してる秋くんも格好いいな……私は勉強しなくても良いのかって？大丈夫！そこそこ勉強できるから！

……それにしても秋くんの机の中にチョコが3つもあるなんて……くっ……机の中に入る猛者は居ないと思ってたのに……お昼休みに直接渡すしか……こんなことになるなら……いつも通りに秋くんと学校に来るんだ……おのれ作者……！

今はお昼休み……なんだけど……予想外な事が起こっている……それは……

「芽高君（先輩）！チョコを受け取って下さい！」

「え？えーと……あ、ありがとうございます？」

他の泥棒猫が私の秋くんにチョコを渡しているからだ……確かに秋くんは私だけじゃなく他の泥棒猫にも優しい……困って居たら率先して助けるし、相談事にも親身になって受けている……ぐぬぬっ……「秋くんお嬢さん計画」を前倒ししなければ……！

え？毎回「秋くんお嬢さん計画」と言うのが出るけどどんな計画かって？……しかたないなー！私の人生を掛けた「秋くんお嬢さん計画」の全貌を教えるよ！……但し秋くんに言ったら……フフフフ……

「秋くんお嬢さん計画」

（小学生編）

- 1、秋くんのご両親（私のお義母さん、お義父さん）に顔を覚えて貰う
- 2、秋くんのご両親にどれだけ私が秋くんを大好きか把握してもらう
- 3、私の両親＋弟にどれだけ秋くんを愛しているか把握してもらう（弟が秋くんに興味が出るのは予想外だった……）

（中学生1年編）

- 4、登校、昼食、下校、ずっと一緒にいる（お願いしてクラスは同じ、机もずっと隣にしてもらう）↑今ココ！

（中学生2年編）

5、「藤丸立香と芽高秋は付き合っている」と噂を流し私の秋くんを狙う泥棒猫の牽制をする

(中学生3年編)

6、お弁当や身体的接触(腕組み等)をして秋くんに女性と思ってもらう

(高校生編)

告白してデートやお泊まりを繰り返して、高校卒業後に結婚!

これが計画の全貌だ!……え?そこまで考えてるのは気持ち悪い?秋くんと結婚するまでは止まらないよ!

計画の練り直しは後で!チョコは秋くんのお部屋で渡す!決まり!

学校が終わり現在秋くんのお部屋です……でも何故かチョコが出せない……なんで!?!ただ一言「秋くんこれが私の気持ちです!」って渡して帰る!……ってするつもりだったんだけど……

あ、あによ……し、しゅうくん……えっと……わちゃし……わた……

何で言えないの私!二等身の私が「藤丸立香という存在はどの世界でも男前だった……まあ、☆5が多いところは破壊したいと思った……思ったけど!私のカルデア☆5あんまり居なかったんだよ……(泣)勝てるわけじゃないじゃん!(泣)」……後半は関係な

いね、うん……よし、言おう！

あによ！秋くん！こりえ受けりよつちえくりやしやい！（あの一！秋くん！これ受け取って ください）

わ、渡せた！渡せたよ！よく頑張った私！

「ありがとうございませす、立香さん！とても嬉しいです」

か、帰りゆ！秋くん！まちや明日ね！

顔熱い！何これ!?早くおうち帰るー！

「その後の秋くん」

……立香さん真つ赤でしたね……風邪を引きましたかね？後でポ○リかアク○リアスでも渡しに行きましようか……

立香さんのチョコは毎年楽しみですから……お昼休みまで忘れてましたけど……さ
て開け……凄いい色のチョコプレート……た、食べられますかね……

秋くんが秋ちやんの場合の日常日記

△月○日

どうも転生者です……もう十数年前に転生したのですけど……しかもなんでか女性に……ええ……TS転生ですよ……まあ、愚痴を言っただけでも仕方がないので幼馴染みの立香さんに貰ったお洒落なノートに日記を書いていこうと思います

△月△日

後輩の女の子数名から「お姉様！家庭実習で作ったクッキーです！受け取ってください！」とクッキーを貰ったのですが……何故ボクに？確かに容姿はFateのステーションに似ていると自覚してますけど……男性特攻じやなかったっけ？……後、立香ちゃん……目のハイライトは何処に置いてきたのですか？

△月□日

今日は学校で立香さんから「明日から休みだから明日はデートしよう！」と言われたのですが……デートって同性でも通用するのでしょうか？……ボクは恋人を作る気はないのでどっちでもいいのですが

△月◎日

今日は立香ちゃんとデート？の日です……1人で町に行くとなんパが多いので何時ものように立香ちゃんの家に行きます……あ、立香ちゃんの弟くんとも仲が良いですよ？

何時ものように弟くんに挨拶して（弟くんは他の人と違って目が怖くないので会話できます）立香ちゃんのお部屋に行って立香ちゃんを起こします……「んー……ガチャ……ピックアップ……仕事してよ……20連回しても☆4すら来ないとか……ガチャは悪い文化……」……リヨぐだ子さんですかね……

△日◎日2

立香ちゃんの家を出て「まずは服を見に行こー！」と立香さんに引つ張られて服を見にきたのですが……ゴスロリやワンピースはやめましょう!?普通にズボンとか……あ、駄目ですか……そうですか……

数十回のボクの着せ替えを楽しんだ後お昼ごはんは近くに近くのマ○ドナ○ドで食べたのですけどあーんはしなくても大丈夫ですよ?何で毎回あーんをするのですか……子供ではないのですよ?身長は小さいですが……胸?放っておいてください!

△月◎日3

お昼ご飯を食べた後は小物屋でのんびりしました……どこからか立香ちゃんが「ねー!秋ちゃん!このペアリング買おう!あ、こっちのペアのマグカップも買おう!」……

何でペアの物ばかりか分かりませんがいつもの事なので諦めてます……要らないと言った時は「え？……私と同じの嫌なの……？」とハイライトが無い目で言われたことがあつて諦めました……

△月◎日4

小物屋を出た後はそのまま解散の予定でしたが「今日は秋ちゃんの家泊まってもいいかなー？」と立香さんが言い出したのでお泊まり会に……まあ、立香ちゃんの私物はボクの家にあるので大丈夫ですけど……少しづつ増えてきてる気がするのですが気のせいですかね？

△月◎日5

ボクの家に戻るとちょうど良い時間だったので、晩ご飯にボクの特製オムライスを作つて一緒に食べました……美味しいと言つてくれるのは良いのですが「いつでもお嫁さんに来れるね！」つて言うのは……なんでボクがお嫁に行くのが確定なのですかね？そもそも結婚する気は無いですよ……

ご飯を食べた後「一緒にお風呂入ろー！」との事で一緒に入ったのですが……まあ、この話は書きません

お風呂に入った後は同じベッドで眠つたのですが、そろそろ離れて寝ません？……嫌ですか……そうですね

PS

立香ちゃんに言いたいことが1つだけあったので書いておきます……立香ちゃんの胸……反則です！ボクに分けてください！

「もしも秋ちゃんがカルデアに行った場合」

「あら？私にそっくりね？私」

「ええ、そうね……妹にしてみましようよ私」

「それは良い考えね私」

「え？え？」

「あの、上姉様、下姉様……マスターもお困りですし……」

「マスターが困って居ます……上姉様、下姉様」

「あら？駄目ドウサ……私に逆らうの？」

「いえ、そんなことは……」

「槍のメドゥーサも逆らうの？」

「すいません！下姉様」

「じゃあ決まりよ……宜しくねマスター」

「え？あ、ワカリマシタ」

*秋ちゃんに過保護となり男性は近付くことも出来なくなる模様

秋くんが秋ちゃんの場合△月◎日の幼馴染み視点

ヤッホー！立香だよ！今回も作者が「原作辛い……ネタに思い付いた物を書いて頭をすつきりさせます」らしいよ！今回は秋くんが秋ちゃんになつたらつて事だけど……
ではでは始まるよー

今日は待ちに待ったマイスイートハニー秋ちゃんとデートの日！昨日、他の泥棒猫が私の秋ちゃんにクツキーなんかを渡してたから今日はデートをして他の泥棒猫なんかを目に入らないようにするんだ！……え？秋ちゃんも私も女性同士？関係ないよ？将来は女の子同士でも結婚できる所で結婚するから！

ん？デートらしく待ち合わせしないのかつて？駄目だよ！秋ちゃんを1人にする男とか泥棒猫とかが群がってくるんだよ！私の秋ちゃんなのに……

最初はやつぱり服屋でお買い物！え？私じゃないよ？秋ちゃんの服だよ？秋ちゃんを放つておいたらスカートとかは履かないんだよ？あんなに可愛いのに！最初はゴスロリ！やつぱりお人形みたいで可愛い！次はワンピース！え？ズボンが良い？ズボンなんか許しません！ズボンを履いたら秋ちゃんの綺麗な……コホンツ……なんでもな

いよー？あ、あの服も似合いそうだね！

……ちよーつと買いきちやったかな？まあ、お母さんから貰ったお小遣いがあるから平気平気！あ、私の両親は秋ちゃんの事を知ってるのかって？うん！今は外国で走り回ってるみたいだけど秋ちゃんの事はとつても気に入ってるよ！

お父さんもお母さんも「絶対に秋ちゃんを捕まえるのよ！あんな可愛くて優しい子居ないんだからね！私の直感ではあの子はあれ以上成長しないわ！……フフフ……どんな服を着てもらおうかしら」「秋ちゃんとはどこまで行った？……何？まだ恋人にもなっていないだと？何をしているんだ……」って応援してくれてるんだ！

お昼ご飯はマ○ド○ルドで良いって秋ちゃんが言ったからそこでお昼ご飯！何時ものように秋ちゃんにあーんで食べさせるの……え？自分で食べるんじゃないかって？秋ちゃんは最初は自分で食べるって言うけど最後は顔を赤くして食べてくれるのが可愛いんだよ！たまに私の指を舐めちゃう時なんかはご褒美だね！

ご飯を食べた後は小物屋にいつも行くんだー！そこでお揃いの物を買うのが楽しんだよ！あ、ペアリング発見！一緒に着けようね！あ、ペアのマグカップだ！一緒に使おうね！買ったペアリングを左手の薬指に着けよう？え……ダメ？……秋ちゃんのケチんぼ……

小物屋を出た後は秋くんのお家にお泊まり!……最初の目標は秋ちゃんと同棲!少しづつ秋ちゃんのお家に私の私物を増やしてるんだ!お箸もお茶碗も着替えだって……後ちよつとかな?

秋ちゃんのお家で晩ご飯!今日は私の大好きな「秋ちゃん特製オムライス」なんだよ!玉子がフワトロでとつても美味しいんだよ!だからつい「いつでも(私の)お嫁さんに来れるね!」って言うんだけどいつも秋ちゃんは苦笑いで「ありがとうございます」って……んー「秋ちゃんお嫁さん計画」を大幅に前倒ししようかなー?

ご飯を食べたら秋ちゃんとお風呂!秋ちゃんって凄く綺麗なんだよ!こんな時は私も秋ちゃんも同性で良かったなーって思うんだよね

一緒に流しっこしたり湯船に一緒に入ったり……え?二人で狭くないのか?って?大丈夫だよ?秋ちゃん小さいから!

……うん?秋ちゃん私の胸見てどうしたのかな?真っ暗な目でジトツて感じで見てるけど……私何かしたのかな?

お風呂が済んだら秋ちゃんと同じベッドで寝るの!秋ちゃんを抱き締めながら!秋ちゃんは別々が良いって言うけど絶対嫌だから諦めてね?

……そろそろ秋ちゃんは眠ったかな？……うん……眠ったね……じゃあいつも
みたい……「ちゅっ……ちゅるっ……ちゅっ……」フフフ……秋ちゃんのフアース
トキスはもう貰ってるんだよ……秋ちゃんは外も中も私一色に染まるんだよ……
秋ちゃんの全部の「初めて」は私のだから……ダレニモアゲナイデネ？

あ、マダ見テタノ？……秋ちゃんにはナイシヨダヨ？

言ったら……■ ■ ■ダカラネ？

じゃあおやすみなさい……

秋ちゃんのバレンタイン幼馴染み視点

ヤッホー！立香だよ！今回は前の秋ちゃんとのデート前のバレンタインの話だよ！あ、作者が「本編はもう少し掛かります……すいません」だって！別に私のマイスイートハニーの秋ちゃんとラブラブ出来るならいつでも良いよ？ではでは始まるよー！

今日はバレンタイン！マイスイートハニーの真心と溢れる位の愛情が詰まったチョコレートが貰える日！あ、私も家族の分のチョコレートと秋ちゃん専用の特別なチョコレートは用意してるよ？他の人は？何で用意する必要があるのかなー？

あ、デートの時は秋ちゃんが家に来てくれたけどいつもは私が起こしに行くんだよ？特に今日はお母さんとお父さんが家に帰って来てるから学校に行けなくなるかも知れないし……

秋ちゃんは朝が弱いからなかなか起きないんだよ……だから色々出来るんだけどね！お風呂の隠しカメラを回収　　して……秋ちゃんのお部屋に行こー！え？秋ちゃんのご両親？確か半年位の旅行だった！

秋ちゃんのお部屋に到着！あ、ここからは見ちゃダメだよー！じゃあ起こして来るね

……「音声だけお楽しみください」……

「あ、このカメラの前に私があげたぬいぐるみ置いてるー！もうー！」

「あ、この映像はお宝だー！ハッ……秋ちゃんが起きちゃうね……」

「うんうん……まだ寝てる……おはようのキスだよー（ちゅっ）……やつぱりちゅーじゃ起きないか……まだまだランクあげても大丈夫かな♪」

「コホンッ……しゅーうちゃん朝だよー！起きないと食べちゃうぞー！……まだもう少し我慢しないとね（ボソッ）」

「ふあい……ひひゆかひゃん、おひゃひょうごしゃいまひゆ……くー……」

「お顔洗って目を覚まそうねー！」

「ふあい！起きてまひゆよー！」

……「音声終了」……

お待たせー！もうすぐ秋ちゃんも来るから、家から持ってきた朝ごはんを用意しなきゃ！お母さんが秋ちゃんに食べてもらって！って言うんだよね

「立香ちゃん、いつもありがとうございます……ですがボクでも朝ごはん位作れますよ？」

いいのいいの！お母さんがどうしても食べてもらいたいらしいからね！

「そうなのですか……あ、そういえば今日はバレンタインですよね？放課後に立香ちゃ

んのお家にお邪魔しても大丈夫ですか？」

うん！いいよ！お父さんもお母さんも喜ぶよ！

「ではお邪魔させてもらいますね……ごちそうさまでした！」

じゃあ学校に行こー！あ、いつもみたいに手を繋いで行こう！

「そろそろボク離れしないと彼氏できませんよ？」

死ぬまで秋ちゃん離れしないしもう好きな人が居るから要らないよー？

「立香ちゃん好きな人がいるのですか？なら余計にボク離れを……」

絶対に秋ちゃん離れはしないよ？

学校に到着！だよ！暗い男の子が多いね？

「これがパレンティンの光と闇の差ですか……」

まあ、教室に行こー！

「はい……」

今は授業中だよ真剣な秋ちゃんも良いなあ……いつもは優しそうだけど真剣な時はキリツとするんだよね……ん？私の勉強？そこそこ出来るから大丈夫！わからないところがあったら秋ちゃんと二人きりで教えてもらえるし！

お昼休み……やっぱり泥棒猫が秋ちゃんチョコを渡しに来てる……

「お姉様ー！私のチョコレートを受け取ってください！」

「え？あ、友チョコと言うのですね……ありがとうございます……ボクからもチョコレートをどうぞ」

「ありがとうございます！お姉様！我が家の家宝として未来永劫受け継いでいきます！」

「いや、そんなチョコレートを家宝なんかしないで食べてくださいよ……」

秋ちゃんは優しいからね……怒らないのかって？秋ちゃんが「友達の中の1人」としてチョコを貰うなら怒らないよ？もしも「秋ちゃんにだけ特別」なチョコなら許さなけれど……見る限り市販のチョコみたいだからね……

よ！
そして待ちに待った放課後だよ……午後の授業？秋ちゃんを見てたら終わってたよ！

なんか秋ちゃんが家にチョコを取りに行ったから私の家で秋ちゃんを待ってるの！
まだかなー？

あ、お父さんとお母さんは秋ちゃんが来るって言ったたらお母さんは「え？秋ちゃんが家に来てくれるの！……こうしちや居られないわ！秋ちゃんに着てもらおうと思って

た服を持ってこないと！」ってお母さんのお部屋に行っちゃったよ？

お父さんは「なんだと!?何故それを早く言わない!（電話を掛ける）ああ、私だ!今日の仕事はキャンセルだ……何?重要な取引?知らん!そこ取引をしなくてもやっていける!ではな!（プツツ!）」って電話してたよ?

「ピンポーン!」

あ、秋ちゃんが来た!今開け

「さて立香、この俺が開けよう」

え?あ、うん……良いけど……お父さん……どうしたの……

「お邪魔します……あ、立香さんのお父さんご無沙汰しています」

「ああ、よく来たな秋ちゃん……堅苦しくしないで良い……それと俺の事は「お義父さん」か「お義父様」もしくは「おじ様」と呼んでくれと言っただろう?」

「あ、ソウダスネ……ごめんなさいお父さん」

「長々と悪かったな……妻も立香も待っている」

……えーと……洗の……コホンツ……お話しすぎたかなー……

「あら!いらつしやい!お久しぶりね秋ちゃん……会いたかったわ!」

「お久しぶりです立香さんのお母さ「立香さんのお母さん?」いえ……ママ……」

「あ、秋ちゃんに着てほしい服があるの!着てくれないかしら?」

「……ボクが着るより立香ちゃんの方が「立香も良いけど秋ちゃんに着てもらいたいのよ！」喜んで着させていただきます……」

ねー？秋ちゃんバレンタインのチョコは？

「そうでした……お父さん、ママ、立香ちゃん……これバレンタインのチョコレートです……形が悪いと思いますが良かったら……」

「ええ、喜んで頂くわ」

「ふむ、ありがとう秋ちゃん……大切に食べさせてもらおうよ」

やったー！秋ちゃんの手作りチョコレートだ！嬉しいなー！

立香の両親紹介

藤丸千鶴

藤丸立香の母、可愛いものが大好きで秋ちゃんが大のお気に入り

ちなみにヤンデレで夫と結婚するために色々なことをしていたらしい……ヤンデレは遺伝か……

服を作るのと可愛い子に色々な服を着せるのが好きだがそれは趣味で仕事は不明

藤丸良治

藤丸立香の父、威厳がありそうだが秋ちゃんの前ではポンコツ化……

千鶴がヤンデレというのは気付いてない

何処かの重大な仕事に就いているが仕事は不明

「藤丸良治の考え事」

千鶴は秋ちゃんに「ママ」と呼ばれている……だと!?……ならば俺も「パパ」と呼ばれたほうが……いや、今のお義父さん呼びも捨てがたい……いや、さて、おじ様とも呼ばれたいが……俺はどうすれば良いのだ!?

秋ちゃんからのバレンタインチョココレートだど!?……食べなくてもわかる! 美味しいのだと……だが!? それを食べるは何時が良いかそれが問題だ!……ワインと共に食べるのが良いか……いや、こんな普通の日に食べるのは勿体無い……ならば特別な日に……いや、それだとチョココレートの風味が劣化してしまう……! クツ……どうすれば良い……ハッ!……そうだ……我が取引相手に〇〇〇が居るではないか! ならば1秒も速く〇〇〇に越させなければ!

秋ちゃんのコスプレ会幼馴染み視点

ヤッホー！立香だよ！今回はなんと！秋ちゃんのコスプレ会だってー！楽しんで
いてね！

ではでは始まるよー！

「さて……秋ちゃん？今から何をするか……わかるわよね？」

「はい……千鶴さんの「千鶴さん？」……いえ、ママの手作りの服でファッションショー
ですよね……」

やったー！秋ちゃんのファッションショーだ！今回は何を着るのかな？楽しみだ
なー！

「うふふふ……残念！不正解よ？今日は私が夢で見た可愛い子達が着てた服を作ったの
！だから今日はコスプレショーよ！」

えー！秋ちゃんのコスプレ……ハッ！カメラ！携帯……よし！充電も容量もある
！

「どんな夢を見たのですか……」

「えーと……あ、せいばーのあーさーさんやらんさーのくーふうりんさんが居たわね？
外国だったのかしら？」

「セイバーのアーサー……ランサーのクー・フリーン……あの……千……コホンツ……
ママ、立香ちゃんか弟さんが居ませんでしたか？」

「あ、立香が居たわね？ ましゅちやんときよひめちやんみたいな可愛い子が側に居たわ
！」

あ、よく二頭身の私が話してる所かな？

「……………そうですか……………よくわかりました……………（フェイトグランドオーダーだー！）」
「それでね？ キュピーンって閃いちやったの！」「秋ちゃんに着せたら絶対に可愛い」って
！」

「あ、ソウデスカ……………」

「それでは！」「秋ちゃんコスプレショーポロリもあるよ！大会」を始めます……………の
前に……………良治さんは出ていきなさい……………ここからは男性は立ち入り禁止です！」

「何故だ！何故俺だけ見てはいけないんだ！俺だって秋ちゃんの色々な姿を見る権利が
あるはずだ！」

「良治さん……………？今、ここから出て行くのと……………秋ちゃんにこれから「良治さん」呼ばわ

りされるの……どっちが良いのかしら？」

「ぐっ……わかった！わかったからそれだけは許してくれ……」

「さて、邪魔……コホンッ……良治さんが居なくなつたので始めるわよ！」

わーい！どんなのがあるかな？

「まずは……これ！秋ちゃんにそっくりな子が着たドレス！あ、この紙も読んでね？」
「えーと……コホンッ……」「うふふ……覚悟はよろしいかしら。『女神の微笑』……何でこのセリフ知っているのですか……」

秋ちゃん！私もうメロメロだよー！

「え？夢の立香ちゃんがピースが足りない……つてどこかに行くのに着いていったからよっ。」

「……そうですか」

「次はこれよ！立香をおかあさんつて言つてた可愛い子の服！」

「これは……恥ずかしいですよ!?せめて履くもの「秋ちゃん？」……」「此よりは地獄。」

わたしたち〃は炎、雨、力——殺戮を此処に……『解体聖母』……は、早く次の服を……」

秋ちゃんエロ……コホンッ……可愛いよ！秋ちゃんになら解体されてもいい！あ、

こつち向いてー！（パシヤッ！パシヤッ！）

「立香ちゃん！写真は！写真は駄目です！」

「次はこれよ！桜色の可愛い子が着てた着物よ！あの子よく吐血していたけど大丈夫なのかしら？」

「良かった……えーと」「一步音越え、二歩無間、三步絶刀！『無明三段突き』！」「沖田さん大勝利〜！ ええ、身体は大丈夫です。まだまだいけますよ！ ……こふっ!?」

……あの、最後のは……」

わー！美少女剣士だ！秋ちゃん凄く可愛いよ！

「これで最後……とつておきよ……もつと着せたい服があるのだけど布が無くなっちゃったの……また開催しましょうね！」

「……えっ……あの……これは……無理で……」

秋ちゃん！早く見せて！

「これがとつておきよーうふふふー！」

「あの……履くものを……いえ……スカートでもこの際良いですから！履くものをくださいー！」

……ブフッ！（鼻血）……ああ……女神様は本当にいたんだ……でも！倒れるわけには……この姿を写真に残すまでは……死ねないのっ！

「ほら、セリフは？」

「うう……身も心も、生きていた痕跡さえも融とかしてあげる。いくわよ——いくわよ
いくわよいくわよいくわよ！『弁財天五弦琵琶』！」

……これは家宝に……しなくては……ガクッ

「立香ちゃん！写真を消して……立香ちゃん？立香ちゃん!?」

「良治さんをいろんな呼び方で呼んでみた」

「やあやあ！私の出番がないから出てきたよ……もつと私に出番を！」

「まずはこれ（台本）」

「あ、良治お父さん！」

「うん？俺に用かな？秋ちゃん」

「次はこれだ（台本）」

「えーと……パパ！大好きですよ！」

「グハッ！（鼻血）……なんだい？秋ちゃん！なにか困った事でもあるのかい？何でもしてみせよう！（ダラダラ）」

「いえ！それよりも鼻血が！死んじゃいますよ！」

次はこれだ（台本）

「え？これは駄目ですよ!?!…………え？言わないと駄目ですか…………ごめんなさいお義父さん……………」

「何？話しかけるなよジジイ!」

「反抗期か!?!…………そうか…………俺はそこまで老けているのか…………少し1人しておいてくれ…………少し逝かないといけない所があるんだ……………」

「ちよつ!今のは台本ですから!何処に逝くのですか!?!まって!お義父さん!お義父さん!?!」

秋くんが秋ちゃんに……幼馴染みの日常

今回は私の日常を……私の日常!? 駄目だよ! 放送禁止! はい! 解散! ……え? ……
どうしても? ……うう……わかったよ……見せれば良いんでしょ……
ではでは……始まるよ……はあ……

07時0分

いつものように「私が作った等身大秋ちゃん人形」に挨拶する

7じ……ん? ちゃんとしろって? ……うう……

07時0分

おはようございまーす! そして! 「私の手作りのマイスイート等身大秋ちゃん人形5号」を抱き締める! あ、「等身大秋ちゃん人形」の服はもちろん秋ちゃんの着てた服だよー! え? どうやって持ってきた? それはもうお義母さんにお願ひしたら「ええ、良いわよ」とくれるんだよ? 盗まないのか? つて? 盗まないよ! ちよつと借りて返すだけだよー!

07時10分

身だしなみを整えて秋ちゃんの内にごー！朝ごはんは？秋ちゃんが作ってくれるんだよ！もう結婚してるのと同じだよね！……え？違う？……むう……

07時15分

いつものように秋ちゃんを起こすあ、ここは放送禁止……え？知ってる？……じゃあいいや

まずは……ちよつと隠しカメラを新しいのに入れ換えて……つと……そして……そして秋ちゃんの寝顔を見つめるのやつぱり可愛いな……よしつ……コホンツ……秋ちゃん……寝てるかなー（小声）よし寝てるね（小声）

じゃあ、おはようのチューだよー（小声）んっ……ちゅっ……ちゅう……えへ……本当はもうちよつとするんだけど……今日は諦めるよ……秋ちゃん！朝だよー！「ふあい！おひまひたよお」

ほらほら！顔を洗ってこようねー？

「ふあい……くー……はっ……ねてまひえん……」

（とてとて）（ぴたっ）「……くー……」（こらー！）（びくっ！）（とてとて）

よし！行ったねー！秋ちゃんが顔を洗ってる間にお皿を並べるんだよ

08時0分

「ごちそうさまでした！」

「立香ちゃんはいつも美味しそうに食べてくれますから嬉しいですよ」

「だって本当に美味しいんだもん！いつでも（私の）お嫁さんに来れるね！」

「あ、ありがとうございます……」

「むー！なんで私の「秋ちゃん好き好き光線」に気付いてくれないのかなー！」

08時20分

「学校に到着！少しお友達と話してたらすぐに朝のホームルームなんだけど……」

「今日もお姉様は可愛らしいです……」

「お姉様！駅前にできたケーキ屋さんが……」

「秋お姉様！あの……これ！読んでください！」

「やっぱり秋ちゃんは人気だな」

「知ってるか？○○組の○○が秋ちゃんに告白するんだと」

「マジで!?……後で○○のヤツとハナシをしないとな……!」

「「俺（私）にも○○に用事ができた！（できました!）」」

「あ、あはははは……危ないことは駄目ですよ……」

「「大丈夫（です）！10分の9殺しで我慢するから（しますから）!」」

「暴力は駄目ですよ……?」

「わかった！社会的にする（はい、ワカッテマスヨ？）」「」

うんうん！みんな秋ちゃんの可愛さがわかってるねー！あ、手紙を渡した子？あの子は秋ちゃんの文通相手だよ？なんでも秋ちゃんと話すのが恥ずかしいんだって

12時00分

お昼ごはんだよ！いつも秋ちゃんが昨日の夜に作ったおかずを入れてくれるんだ！え？いつも秋ちゃんが作ってくれるのか？つてうん！愛妻弁当だね！

あ、クラスの皆？お昼時間が始まったら皆どこか行つたよ？

16時00分

放課後！だー！放課後は晩ごはんのお買い物！今日は何するのー？

「そうですね……鶏肉が安いので唐揚げにしましょうか？」

わーい！秋ちゃんの唐揚げだ！すごく美味しいんだよ！

いつも晩ごはんは一緒に食べてるんだよ！

ん？弟？んー……この頃秋ちゃんに会うのが恥ずかしいって……幼馴染みなのにねー……あ、バレンタインのチョコは泣きながら食べてたね！なんでだろ？

18時00分

晩ごはんのお手伝い！お皿を並べるんだ！ん？他にすることはないのか？……秋ちゃんがね……手伝わせてくれないんだよ……くすんつ……

19時00分

ご飯を食べたら帰る時間……泊まって行ったら……

「駄目ですよ？明日も学校ですから」

むう！秋ちゃんのケチんぼ！おやすみ！

「立香ちゃんおやすみなさい」

22時00分

宿題とかお風呂とか入ってたらこんな時間なんだよー

おやすみなさい

「弟くんの葛藤」

秋ちゃん……可愛いな……でも立香が好きだから話しかけたら怖いんだよな……でも前に立香がデートに行くときは挨拶してくれて嬉しかったな……俺……どもってなかつたよな!!顔は引き吊つて無かつたよな!!気持ち悪いとか思われてないよな!!

……チョコも俺にくれたんだよな……あのときは部活の練習で会えなかつたんだよな……会いたかつたな……はあ……

??時??分

……これで「愛の秋ちゃんアルバム35冊目」……ふふつこの写真とか顔にシャンプー付いてる……可愛いなあ……こっちは授業中に居眠りしてる写真……授業中じやなかったら食べちゃうのになあ……

あ……また見てたの？これも秘密だよ？ワカッテルヨネ？

じゃあ、おやすみなさい

秋ちゃんとかリスマス

メリークリスマス！立夏だよー！今回はクリスマスの特別編！久しぶりに出た気がするけど……まあ、いいかー！

じゃあ始まるよー！

今日は待ちに待ったクリスマス！今日こそ秋ちゃんの初めてを……コホンツ！頑張るぞー！

あ、今日は秋ちゃんのデートまでしか教えないよ！

まずは朝に秋ちゃんを起こしに行くのは……カットするよ！いつも見てるから私が何するかわかってるよね？

街で秋ちゃんと楽しくデート！まずは服屋だよね……特別に発注したサンタの服を着てもらうんだ！……トナカイも捨てがたかったけど……それは来年！秋ちゃんが私の彼女になってから！

「……あの……クリスマスに特別な服をつけて……何故サンタ服……それに丈が短いです……」

当たり前だよ！「ミニスカ」サンタ服だからねー！……超ミニスカサンタ服は迷った

けど……他の男や泥棒猫に見られなくなかったから……うう……秋ちゃんの超ミニスカサンタ……

次はお昼ご飯！あ、ミニスカサンタ服は後で晩ご飯を食べた後に着てもらうんだ！当たり前でしょ？秋ちゃんの可愛い姿は私だけが見て良いんだから！

お昼はファミレスで食べるんだ！毎回マ○○ド○○ドばかりじゃ飽きるよね！私はハンバーグ！秋ちゃんはパスタを頼んだよ！あ、秋ちゃん一口ちようだい！

「良いですよ……どうぞ」

秋ちゃん……食べさせて！あーんって！

「いや……外ですし……」

関係ないよ！食べさせてー！

「いや……あの……あーん……」

あーん！うん！美味しいねー！お返しに私のハンバーグを一口あげるねー！はい！あーん！

「いや……だから外……」

あ、口移しの方が良い？

「……あーん……美味しいです……」

間接キスだねー！

「なっ……」

秋ちゃん顔真つ赤だよ！可愛い！

「ご飯を食べた後はケーキ屋さんでクリスマスケーキを買って秋ちゃんの家に行くんだよ！あ、クリスマスプレゼントを私の家に置いてきちやった……秋ちゃんは先に帰っててね

「わかりました……先に用意してますね」

すぐに行くからね！

私の家に到着！クリスマスプレゼントは私の分とお母さんからのプレゼント、お父さんからのプレゼントを持って秋ちゃんの家に行こー！お母さんからは「夢に出てきた服」えーと……でんじやらす・びーすとだったかな？……お父さんからは「防犯道具の指輪」……指輪で防犯できるのかな？

秋ちゃんの家に着！ただいまー！

「あ、お帰りなさい」

あ、サンタ服着てくれたんだー！やっぱり可愛いよ！

「やはり恥ずかしいですけど……」

あ、お母さんとお父さんからのプレゼント！

「あ、ありがとうございます」

お母さんからは服でお父さんからは防犯道具だつて！後で服を着て見せてね！

晩ご飯はクリスマスチキンとクリームシチュー！クリームシチューは秋ちゃんが作ってくれたんだ！やっぱりいつでもお嫁さんに来れるねー！

「……はい……ありがとうございます……」

ご飯を食べた後はプレゼントの交換！秋ちゃんからは手編みのマフラーをくれたよ！嬉しいなー！私からはペアリングだよー！意味はまだ秘密だよー！

「……意味があるのですか……」

お風呂はいつもみたいに一緒に入って後はケーキを食べるんだ！

ねえー！秋ちゃん！ケーキ食べよー！家からシャンパンを持って来たんだよ！

「あ、忘れてました……食べましょうか」

あ、注いであげるねー！はい！

「ありがとうございます……このシャンパン美味しいですね」

まだあるからいっぱい飲んでねー！

「あれ？目が回っ……」

ふふ……あれー？秋ちゃんどうしたの？眠いのかな？ベッド行こうねー！

「ふあい……」

……また見てるの……ここからは見せないよ？じゃあね

ふふ……

秋ちゃんとお正月

けましておめでとうございます！立夏だよー！今年も宜しくね！今回はお正月のお話だよ！じゃあ始まるよー！

今日はお正月！お餅におせち！おみくじに……秋ちゃんの着物姿！やることがいっぱいだー！

さて……新年初寝顔……だったんだけど……秋ちゃん起きてるんだよね……はあ……新年初キュー……したかったな……

そんなわけで秋ちゃん！御詣りに行こー！

「明けましておめでとうございます……御詣りですか……普段着で大丈夫ですか？」

駄目だよ！御詣りの前にお母さんに着付けしてもらおう！ほら！行くよー！

「ちよつ……引つ張らないでください……行きますから……」

お母さん！秋ちゃんと私の着付けしてー

「あら？明けましておめでとうございます秋ちゃん」

「明けましておめでとうございます……お義父さん、千鶴さん「千鶴さん？」……いえ、

ママ……」

「ああ、明けましておめでとう秋ちゃん……ほら、お年玉だ」

「いえ、毎年貰うわけには……」「いいから」……ありがとうございます……」

お母さん早く着付けしてよー

「あ、そうだったわね！じゃあ立夏と秋ちゃんは私の部屋に行きましょうね」

「宜しく願います」

着替え完了だよー！やっぱり秋ちゃんの着物姿も可愛いなー！……うーん……秋ちゃんとの結婚式どっちにしようかな……白無垢も似合うだろうし……いやでもウエディングドレスも見たい……後数年しかないからしつかり考えないとね

やっぱり神社は混んでるね！はぐれないように手を繋ごう！

「はい、わかりました」

秋ちゃんはどんなお願いするの？

「ボクは健康祈願をお願いしようかと思えます……立夏ちゃんは？」

私は秘密だよー！

「……そうですか」

あつ、私たちの番だね！お賽銭に入れて……（秋ちゃんと結ばれて幸せになりますよ

うに！あ、できたら不思議な力で秋ちゃんとの子供ができますように！もちろんお母さんは秋ちゃんです！」

よし！お願いも終わったし！今年一番のおみくじだ！おみくじ下さい！……えーと……大吉だ！ふむふむ……運命の人はすぐ側に！ですが運命の人を狙う人はたくさん出現！……なにこれ？秋ちゃんのおみくじは？

「えーと……大凶ですね……貴方の運命の人はすぐ側に……ですが待ち人次々来る……なるほど……木に結んできます」

行つてらつしやいーん……もしかして泥棒猫が増えるのかな？ならもつと警戒しないとね……あ、おかえりー！じゃあ帰ろう！

あ、腕を組んで帰ろう！

「いや、同性ですからおかしいと思いますよ……」

良いの！よし帰ろー！おー！

家に到着！お母さんただいまー！

「お帰りなさい、お雑煮出来ているわよ？秋ちゃんも食べていきなさい」

「いえ、家に帰「食べていくわよね？」……ご馳走になります」

あ、秋ちゃん！

「はい?」

今年も宜しくねー!

「(こちら)そ宜しくお願ひしますね」

「神様視点」

(秋ちゃんとは結ばれて幸せになりますように!あ、できたら不思議な力で秋ちゃんとの子供ができますように!もちろんお母さんは秋ちゃんです!)

……なんと願ひ……そんな願ひは叶えられる訳が……同性同士では……どうしたのか……

とある少女の……???視点

これは、もしかしたら、こうだったら……の少し違う世界の物語……

わたしは……

わたしはあるとき……

……■■先輩を守れなかった……

いつも■■先輩と立香先輩、そしてわたしが一緒にいることが当たり前で……ずっとこの時が続くと思っていました

■■先輩はよく立香先輩に連れ回されていても

「ちよつと待っててくださいよ！立香さん！火種が足りないからって僕とマシユさんだけで行くのは駄目ですって！……ワンパンで大丈夫？……どこのリヨぐだ子ですか……はあ……マシユさん、立香がああ言ったら聞かないので行きましようか……」

と仕方なさそうな困った笑みを浮かべてわたしと一緒に立香先輩を追いかけたり……（何故かその笑みは心がざわめきました）

「むうーちよつと清姫ちゃん！なんで私の秋くんの手を繋いでるの!?」「たまにはます

「駄目ですよ……マシユさん！あなたのマスターは立香さんでしょう？ならばアナタは自分のマスターを守ってください！」

……強大な力と熱量が秋先輩を飲み込み……元から何もなかったかのように……秋先輩が消滅……しました

「あ、あき……くん？秋くん????いや……イヤイヤイヤ……嫌あああああ!」

「あ、秋……先輩……!?!……わ!わ!……秋先輩を……あ……ああああ!」

「フツ……芽高秋が消滅した程度で壊れるか……興奮めだ……もういい……お前達も芽高秋の所に送ってやろう！」

「誕生の時きたれり、其は全てを修めるもの」

「秋くん……どこに行ったのかな……だめだよーわたしからはなれていったら……」

わたしは……せめて立香先輩だけでも……盾を構えたのですが……心が……気持ち折れてしまった盾では……

……ああ……あの時……心がざわめいたのは……

……立香先輩と清姫さんが羨ましく感じたのも……
わたしは……秋先輩が……好きだったのですね……
もつと早く……気付いていれば……

「おーい？マシユさん？どうかしましたか？ぼーつとしていますが大丈夫ですか？」
……？……は……？

「立香さんが火種集めに走り出したんですよ？まったく……一度言い出したら聞かないのですから……」

戻ってきた……のでしょうか……

「行きましようか？マシユさん」

はい！今行きます！

……何故……戻ってこれたのかはわかりませんが……最初にすることは……

「霊基の変更」ですね……肝心なときにわたしは何も守れなかった……ですから……守るためではなく……先輩達に危害を加えるモノを滅する為に……

それと……秋先輩をわたしのものに……恋は早い者勝ち……ですよね？清姫さん？

…
フ
フ
フ
ツ
…
…